

横浜市立大学学術情報センター

祝 15 周年

貴重書 月替わり展覧会リーフレット (178)

2026 年 6 月の作品は
日本の近代科学史を語る古地図コレクション
—THE JAPANESE BUDDHIST WORLD MAP より—

展示テーマ

～古地図が語る日本の科学思想史～

2026 年は、月替わり展覧会が始まってから 15 周年の節目にあたる。本年度はこれを記念し、本学所蔵の貴重書が最先端の研究資料として活用された事例や、博物館・美術館で展示品となった事例を紹介し、本学の対外的な文化ブランドを知る機会としたい。

今回は、コロンビア大学宗教学科教授 Moerman, D. Max 氏による以下の著作を取りあげる。Moerman 教授は、日本を専門とする宗教学者である。

The Japanese Buddhist World Map: Religious Vision and Cartographic Imagination

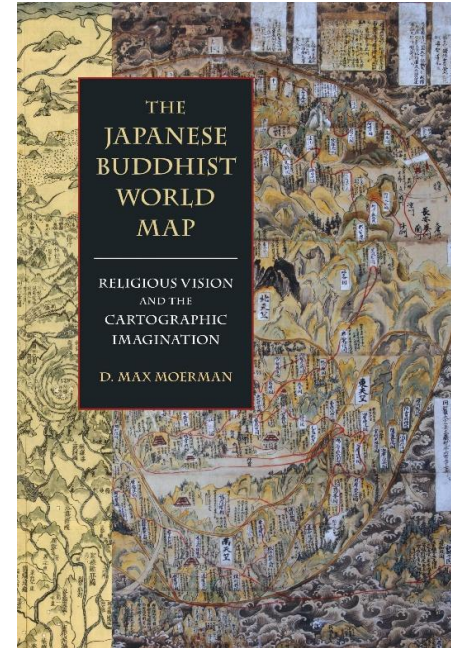
本書は 7 世紀から 19 世紀までの日本の地理思想を扱う。特に、近代の仏教界が近代科学を受け入れるまでの葛藤が表現されている古地図（梵曆ともいう）描写の分析は、西洋の読者に強い印象を与えた。この分析に用いられた史料の一つが Yokohama City University Library 所蔵の古地図である。

アメリカの学者が、英語圏（英語に漢字・サンスクリット表記も併用）の読者に向けて刊行した、本書の学術的意義は大きい。

Moerman 教授が古地図調査のために本学の学術情報センターに足を運んだのも、一度や二度ではない。調査後には研究室で資料についてあれこれ議論したことを思い出す。著書は 2021 年にハワイ大学出版から刊行され、書評でも高く評価されている。カラー図版が多く、読み物としてもぜひ手に取ってほしい。

国際教養学部教授 松本 郁代

Moerman, D. Max. *The Japanese Buddhist World Map: Religious Vision and Cartographic Imagination*. Honolulu: University of Hawai'i Press, 2021.



本書は、仏教界で制作された多様な地図を初めて体系的に取り上げ、制作方法、複製（写本）、受容史を視覚文化・物質文化の観点から分析している。14～19 世紀の僧侶が制作した「仏教世界図」を中心に、18～19 世紀に西洋科学の天文学が伝来した際に生じた「仏教科学」をめぐる議論を扱う。本書は、日本仏教を単一の近代像に還元せず、複数の近代や世界観が併存し得たことを示し、科学と宗教の間にある相克を、「Cartographic Imagination」という新しい視点から

読者に提示している。

なによりも、近代仏教界の知識人が、自分たちの価値観が非科学的であると否定されながらも、西洋科学を真摯に学び、同じ科学的方法によって自らの世界観を実証しようと懸命に活動した姿勢には、研究者として深い感銘を覚える。それは、AI 時代の私たち人間 vs 機械との関係にも通じる。

時の急激な変化に立ち向かう時、このような真摯さと plural（多元的）な発想が求められる。古地図を思想的実践の対象として分析する視点の広がり、普遍的な人間の知的欲求を捉えており、面白い。

古地図のカタログとしても、学術書としても学生諸君にオススメの一冊。
出版社 URL: [The Japanese Buddhist World Map: Religious Vision and the Cartographic Imagination – UH Press](https://uhpress.hawaii.edu/book/9780824334288/) (20260428_最終閲覧)

横浜市立大学の貴重書研究①～日本有数の梵暦コレクション～



存続「閻浮提図附日宮図」(1軸)
成立：1821-1823 縦 164 cm × 横 64 cm

象儀圖」(fig.6.22-23)。これらは「横浜市立大学古地図データベース」で

梵暦（ぼんれき）とは、インド起源の仏教的宇宙観・暦法にもとづき、天体の運行や暦を説明した日本の「仏教天文学」の体系を意味する。本学は梵暦コレクションの主要所蔵機関として知られ、目録や図録も刊行されており、データベース公開も進んでいる。日本の近代科学受容史において重要史料であるが、難解さゆえに一般にはあまり知られていない。

Moerman 教授はコレクションから以下の 6 点を図版として掲載している。

- ①「南閻浮提諸国集覽之図」(fig.5.4←本文図版番号)、②有範『俱舍世間品日月行道圖解』(fig.6.2)、③今井氏老『日月旋轉圖和語鈔』(fig.6.3)、④存続「閻浮提図附日宮図」(fig.6.16、左図)、⑤円通「須彌山儀銘並序」(fig.6.22-23)、⑥円通「縮

公開している。実物も魅力的で必見だが、肉眼では限界がある。現在公開中の DB では細部まで拡大して観察することができる。

本リーフレットでは、世界認識の発想が際立つ④の史料（図版掲載）を紹介する。本図は僧存続（？～1842）によるもので、上部・中央・下部の 3 構成からなる。横浜市歴史博物館で列品解説した際に、私は一番上の仏教的世界観を「青い時空のミルフィーユ」と表現したが、これは、閻浮提（バラモン教・ジャイナ教・仏教に共通する須弥山世界のうち、インドをモデルとした人間界を指す）を描いたものである。

中央には、アジア・アフリカ図が描かれる。この図は西洋伝来の世界図で、赤道・黄道・白道や細かな地名が記される。列品解説では「空間のレアチーズケーキ」と表現したが、極東はカムチャッカ半島、西はグリーンランドまで描かれ、アメリカ大陸は含まれない。日本は右端に位置し、私たちが普段見慣れている世界図の配置とは異なる。下部には、地震・彗星・日食・月食・星宿、潮汐・寒暖・地動・雷鳴など自然現象について、宗教的観点からの解説が漢文で記されている。詳細はモアマン教授の著書や参考文献を参照して欲しい。

この史料から読み取るべき点は、仏教界が自ら信じていた価値観を自己批判しつつ、宗教的真理と科学的真理との違いを明確にした点である。議論が対立しても否定や排撃に終わらせず、異なるパラダイムにある仏教的世界観と近代西洋の地理観を plural なものに捉える発想は、過去や遺産を切り捨てない、柔軟で包摂的な考え方につながる。これは過去と現在を対等で重層的にとらえる日本思想にも通じる。

参考文献&URL：

- ・岡田正彦『忘れられた仏教天文学』（ブイツーソリューション、2010）
- ・「横浜市立大学古地図 DB」<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ycurare/index.html>

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。

また、利用は学術研究目的に限らせていただいております。

※過去の展示はオンラインでも公開中です！

※第 179 回展示は令和 8 年 8 月上旬からを予定しています。



令和 8 年 7 月 1 日発行

236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学 学術情報センター